

* 研究授業からの学び *

R4.12.5

No.6

文責 新玉

令和4年 11月15日(火)
西土佐小学校 第1学年 生活科 畑中 真由子 教諭
単元名 「たのしいあきいっぱい」全22時間
小単元1 「あきのよさをつたえよう」(5時間)

<単元でつきたい力>

- ・自然の様子や四季の変化に気付く。【知識及び技能の基礎】
- ・身近な自然の違いや特徴を見付けたり、身近な自然を使って、遊びや遊びに使うものを工夫したりしてつくる。【思考力、判断力、表現力等の基礎】
- ・身近な自然を取り入れ、生活を楽しくする。【学びに向かう力、人間性等】

本時の目標

身近な山や校庭、家で見つけた秋のものを紹介し合うことを通して、秋という季節の特徴や、季節によって生活の様子が変わること気付くことができる。

本時の評価規準

自分たちの生活は、季節によって様子が変わること気付いている。【知】。【思】

本時の情報活用能力

似ているところやちがうところ、順序などを考えながらまとめる。

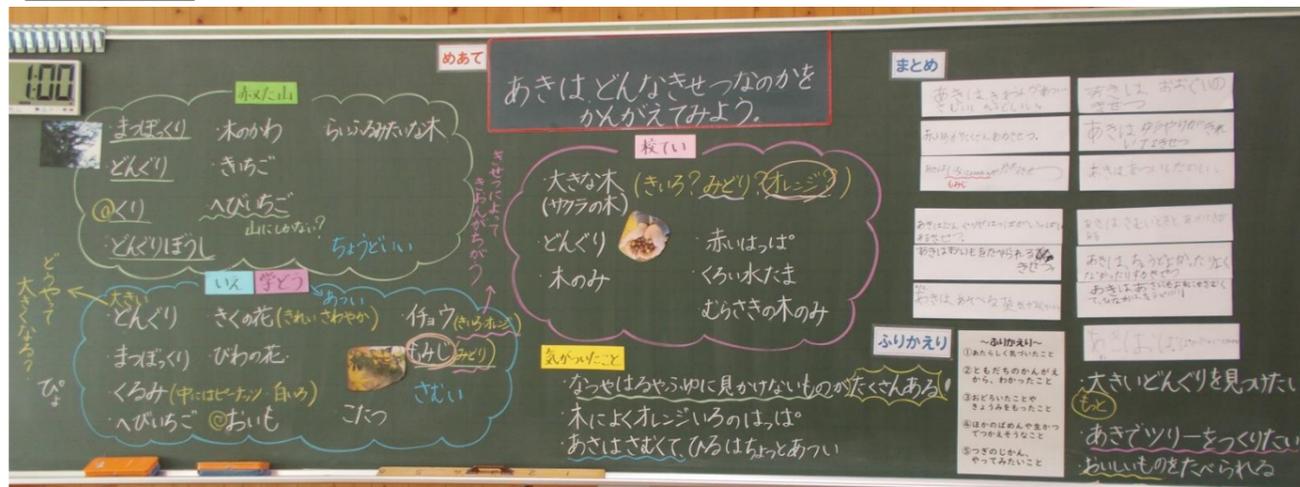
本時の授業風景

先生！見て！！
家から秋イチゴを持ってきたよ！
おばあちゃんのところからもってきたんだ！



木にオレンジ色の葉っぱが多いよ。秋は葉っぱの色が変わる季節なんだとわかったよ。

本時の板書



研究協議より(抜粋)

授業者より

- 家でも秋見つけができるよう家庭学習に出し、気づきの質を高めることを目指した。
- 「どうしてそう思った？」など問い返しをすることで児童の考えの根拠・理由付けをさせた。
- ワークシートを活用することで一人一人の考えを明確に記録し、発表へと繋げた。
- ワークシートを全部書けない児童がおり、時間設定の難しさを感じた。
- 気づいたこと、見つけたことを発表する活動の時間が少なかった。
- 教師と子どものやりとりになった。子どもの意見からつながれたらよかった。

参観者より

- 自分の生活に結び付けて考える姿が見られた。
- 子どもからめあてを引き出し、春、夏と比べながら学習していた。
- 自分が見つけた秋を伝えたいという意欲があり、主体的な学びとなっていた。
- 教師の反応や問い返しが、学習を深めていた。
- 具体物を紹介し合い、共通点や相違点をまとめると気づきの質が高められるのではないかと感じた。
- 春、夏の季節の特徴を見せておくと更に違いを意識させることができる。
- 見つけたものが「秋」を意識していたのか、あるものを拾っただけになっていなかったか。
- みんなで見つけたものの共有だけでなく、個人の発見の共有にしたらよかったのではないかと感じた。

指導主事より

- ・秋にひたることができている。
- ・家の人とのやり取りの中で「秋って何かな」「何を持って行こう」と意欲的に考えることができている。
- ・児童のつぶやきを拾ってつなげ、価値づけできたらよかった。
- ・見せたい！伝えたい！という意欲があった。具体物を見せることと時間設定が難しい。
- ・秋見つけの際に保育所の先生や園児に意図的に会わせるなど工夫していた。保育所の子に伝えたいという気持ちにさせて次につなげられるようにしたい。
- ・体験を十分にしている時に表現させ、達成感を味わわせたい。
- ・気持ちの代弁(子どもたちに問い返す)を他の児童にさせていた。

授業者のリフレクションより

- ・児童同士の気づきの共有の時間をもっと取れるよう、計画をしていくべきだったと感じた。
- 個人の時間やペア活動、全体での学びの時間など児童の実態に合わせた活動内容を実施していくと、よりスピーディーに全員が発言するチャンスができる。
- ・春や夏の掲示物、ワークシート等を有効活用し、季節の特徴をより具体的に気づかせていく必要がある。
- ・振り返りと評価規準の整合性を教師自らが見直し、ゴールイメージに合わせた発問・展開を考えていく。

☆これから取り組んでいきたいこと

- * 児童の考えを問い返していきながら、気づきを深めていく。
- * 評価規準を確認し、児童の実態に合わせた振り返りを具体的にイメージしておく。
- * 同じもの(ex:桜の木)を年間通して観察することで、四季の変化に気付かせていく。
- * 子ども同士での学び合いを目指し、他の児童に意見を振っていく。